

教育臨床心理 試験対策プリントφ(..)

~ストレスまみれの貴方へ更なるストレスをプレゼント~

全部で20問ちかくあります。これが答えられたら相当いい感じだと思います。ところどころ答え書いてませんが、素でわからないというか、みんなに解答として見せられるほどの自信のないやつがあります。先生に聞いても、それはじぶんで考えて書くものですよ、とかで答えは教えてくれないんですよ…だから自分で考えてみてください！私に聞いてくれたら、私なりの答えは言うけど…とりあえず文章では伝えきれないほど、申し訳ないと思ってます。あと、正直疲れました。読み直ししてません。間違いとかは、頑張っ

ちゅうい+

- ・ 過去問の解答は作るべきかと思って、一応書いたけど、あくまで個人の解答やから、もっといい解答は自分で考えてみて！完璧な解答じゃないですよ！
- ・ プリントの穴埋めはシケタイ（ナツキorてるさと？）に聞いてくれたらいつでも見せます。

過去問（2007年のです！参考にしてみて:->）

【問題1】境界性人格障害とはどのようなものか。次の[]内の語句をすべて用いて説明せよ。[人格障害、「ミクロナ狂い」、虐待、内的ワーキング・モデル]

【解答】人格障害とはだれもが首をかしげるような、性格の強い偏りのことで、その1つとして、境界性人格障害がある。人格障害の患者は一見して、異常であるとはわからないが、親しく付き合っ

【問題2】子どもは成長していく過程でどのようにして性役割（男らしさ、女らしさ）を身につけるか。精神分析理論の発達論の立場から説明せよ。

【解答】子供が性役割を身につけるのは、3~6歳までのエディプス期である。このころ、リビドーは性器に移行し、性器いじりをするなどしてリビドーは満足されるのだが、異性の親に対する性愛的願望、同性の親に対する敵意、罰せられる不安という3つの心理的要素であるエディプスコンプレックスを抱き、リビドーは満足されにくくなる。このエディプスコンプレックスを、同性の親を同一視したり、異性の親を諦めたりするなどして、克服することで性役割を身につける。

【問題3】世の中にはさまざまな悪徳商法がみられるが、その1つにこんなやり方がある。セールスマンが戸別訪問し、まず200万円の羽毛布団を売りつけようとする。断られると、後日再び同じ家を訪問してまた200万円の羽毛布団を売りつけようとする。再び断られると、「それでは」ということで、今度は10万円の座布団を買うように勧める。すると、買ってしまふ人が少なからずいる。したがって、この手のやり方があとを絶たない。

ところで、このようなやり方による売込みによって高額なものを買ってしまう心理と、異性を好きになる心理にはある共通点がみられる。このことについて論述せよ。

【解答】人間には「返報性の原理」というものがある。すなわち、譲歩には譲歩で返す、ということである。セールスマンが羽布団から座布団に譲歩したのだから、売られる側も譲歩して買ってしまうということである。(異性を好きになる心理との共通点は述べてないです。述べられてないことは、自分で考えてくださいと言われました…)もしかして、好きと言われたら、その人のことが気になっちゃうようになるとか?私にはよくわかりません。すいません!

【問題4】うつ病になりやすい人は抑うつの認知と呼ばれる特有のものの考え方をする。抑うつの認知とはどのようなものか、原因帰属を例にあげて説明せよ。

【解答】うつ病になりやすい人に特徴的な思考パターンを抑うつの認知という。例えば成功したことに対しては外的で不安定な原因(運が良かったなど)に帰属する傾向が強く、失敗したことに対しては内的で安定した原因(自分に能力が無いなど)に帰属する傾向があることを抑うつの原因帰属スタイルという。

【問題5】自己愛傾向の強い男が、つきあっていた女性から別れ話を切り出されたところ、激しく怒り、その女性に無言電話をかける、中傷ビラを女性の自宅付近にまくという行為に出た。この行為の背後にある心理について論述せよ。

【解答】自己愛傾向の強い人は自分に対して非常に強い自信を持っているため、相手に拒絶をされるということを受け入れることができない。そういった人は、自分が相手を愛したのに相手からの愛情を得られなかった、ということに対し、落胆するのではなく、相手が自分を認めてくれなかったということに怒りを感じ、激しい攻撃行動にでる。それが、無言電話や中傷ビラをまくといった行動となってあらわれる。

【問題1】以下に示す子どもを虐待する親の心理について、次の[]内の語句をすべて用いて説明せよ
[合理的な原因、不合理な原因、攻撃の情動表出説、ストレス]

エツ子さんは32歳の主婦。家族は夫と3歳のコウタロウ君、生後9ヵ月のマリ子ちゃんの4人である。社員の夫は朝6時に家を出て夜9時ころ帰ってくる。エツ子さん一家は最近、今住んでいる大型マンションに引っ越してきて、エツ子さんは近所との付き合いもほとんどない。そんなある日、泣き止まないマリ子ちゃんに腹を立てたエツ子さんがマリ子ちゃんを何度も何度も強く叩いてしまった。

【解答】 えつこさんにとって、大型マンションに引っ越してきたばかりで、親しい友人もおらず、そのうえ夫は朝早くから夜遅くまで帰ってこないために、幼い子供2人の育児に関する不安を打ち明ける相手もおらず、一人ですべてに対処せねばならないというストレスがたまっていたと考えられる。心理的に不安定な状態にあったえつこさんにとって、マリ子ちゃんが泣きやまないということが、動機付けとなり、攻撃行動を引き起こし、攻撃することによって、不快な感情が、表出、発散される。これを攻撃の情動表出説という。この欲求不満をもたらした原因である、赤ちゃんが泣きやまないという事態は本来合理的な原因であるにもかかわらず、えつこさんに元々さまざまなストレスがあったことにより、えつこちゃんがわざと泣いて、手を焼かしている、という不合理な原因としてしまい、こういった虐待に結びつきやすくなったと考えられる。

【問題2】 普段は口数の少ない、おとなしい男子生徒を、ある女子生徒が軽い冗談のつもりでからかったところ、本当にごく些細なことだったにもかかわらず、その男子生徒がキレて突然その女子生徒を殴る蹴るという暴行事件が起こった。加害者の男子生徒はどうしてこのようなことになったのか。精神分析理論に基づいて説明せよ。

【解答】 よくわかりませんが…

過去に起きたトラウマ体験を抱えていた場合に、普段は無意識の状態に抑圧していたものが女子生徒の冗談によって、そのトラウマ体験を思い出しそうになり、それを再び抑圧すると、今度は、その葛藤が意識化されても平気なように形を変えて現れることがある。これを局所論という。この場合、殴る蹴るの暴行を加えて、それ以上その葛藤に触れさせないことで、加害者の男子生徒に心理的安定をもたらす効果があったと考えられる。

間違っていたら、教えてください。

【問題4】 自己愛性人格障害と呼ばれる特徴的な性格傾向について説明せよ。なお、解答にあたっては、自己確証理論の内容を必ず含まなければならないとする。

【解答】 自己愛性人格障害とはだれもが持っている自己愛が正常な範囲を超え、著しく強すぎることをいう。自己愛が強い人は、人から称賛されることを常に望み、人から拒絶されることに非常に敏感である。自己確証理論とは、人が、自分自身のことを確認したいという欲求をもっており、その為にさまざまな行

動をとることである。すなわち、自己評価が高い自己愛性人格障害患者は、他者の評価を、自己評価と一致させるために他者の言動を都合よく解釈するなどして自尊感情が上がるように（下がらないように）する（これを自尊心方略という）が、それが不可能であるとわかると、批判に対してひどく傷つき、自分を認めなかったことに対して、激しい攻撃行動にでたりする。

【問題5】 西ヨーロッパ・アメリカの文化圏において、いわゆる「拒食症」「過食症」が生じてきた歴史的経緯および社会的背景について説明せよ。

【解答】 西ヨーロッパや、アメリカ文化圏において、富裕な時代がやってくると、食物の供給が安定したことにより、量から質に重点が移行するようになる。洗練された美食と同時に、やせた体型であることが高い地位を示す手段となり、やせていることを美しいとする価値観が生まれる。さらに、社会が発展し、自らの身体を管理してスリムな体型を維持することは、自分をコントロールできる有能な人間であると考えられるようになる。男女平等社会が発展するにつれ、女性も社会で有能であることが求められるようになり、自尊感情の低い女性はダイエットに励むようになり、拒食症患者が増加した。それと同時に、太ることへの恐怖を抱きつつも、食べたいという衝動を抑えることができずに、過食し、過食後におう吐や下剤乱用を行うことを繰り返す過食症患者もでるようになった。

別にここがでるなんて言ってないからね！

↑練習問題（教科書の133ページに練習問題があります！その解答ですφ(..)）↑

解答というより問題に沿って、深めにまとめてみました。実際の解答ではここまで書けなくても、自分の覚えている知識は全部書ききった方がいいと思われます。

- 1、精神分析理論の発達論ではリビドーを想定する。リビドーとは、個体の維持や種の保存に役立つ精神的エネルギーであり、成長発達の過程で身体のだどこかに顕著にあらわれる。個体が大人になったら子孫を残す、ということに専心させる役割をしているのがリビドーである。その発達段階でリビドーが満足されれば、その後の性格形成に問題はないが、リビドーが満足されないと、（固着を起こすと）成長した後に固着を起こした段階まで戻って（退行して）満足しようとし、性格形成にゆがみが生じる。

補足

具体的には、1歳半ころまでの口唇期にはリビドーは唇にあらわれ、母親の乳房を吸うなどして満足されるが、これが満足されないと、口唇性格と呼ばれる、過度に甘えん坊で、依存的な性格が形成される。1歳半から3歳ころまでの肛門期にはリビドーは肛門に移行し、尿や便を保持し、排出することで満足される。親による排泄訓練のしつけが適切であれば、自己をコントロールできる安定した性格が形成されるが、そうでなければ、わがまま、反抗的、几帳面、潔癖症などを特徴とする肛門性格が形成される。3歳から6歳ころになるとエディプス期になり、リビドーは性器に移る。性器の違いから男女の性の違いに興味を持ち、性器いじりをしたり、異性の親に対して性愛的愛情を抱く。この時期の異性の親に対する性愛的願望、同性の親に対する敵意、罰せられる不安という3つの心理的要素をエディプスコンプレックスという。エディプスコンプレックスを克服できないと、自信過剰、異

性に対し誘惑的であり反面、気が小さいなどのエディプス性格が形成され、同性の親に対する道徳性や性役割（男らしさ、女らしさ）が形成されなくなる。6歳から12歳ころには潜伏期がおとずれ、リビドーは一時的に潜伏し、13歳以降は性器期といい、性的な関心が高まり、子孫を残そうとする。

- 2、挫折愛タイプのストーカーは、付き合っていた相手から関係を拒絶された際に、相手につきまとったり、嫌がらせをしたり攻撃したりする。このような人は自己愛傾向の強い人に起こりやすい。自己愛傾向の強い人は、自分に対して非常に自信を持っているため、相手から拒絶されるということが受け入れられない。自己評価が高いがゆえに、他者の言動からその確証を得たいと考え、自己評価と他者評価を一致させたいと願っているため、自分が愛している人から愛情を得られないとわかると、拒絶されたことに対し、激しく腹を立て、怒りや恨みの感情を抱き、攻撃行動に出る。
- 3、アタッチメント理論とは、乳児と母親との間に成立する心理的な結びつきのことである。乳児からの愛着行動に母親が応答を繰り返すことによって成立し、アタッチメントの成立は安定した情緒や性格を形成する。つまり、乳幼児期に虐待を行うことによって、乳児の発する愛着行動に対して、母親の応答を得られないという事態に陥り、他者に対する内的ワーキングモデルは、自分が困っているときにも人は助けてくれない、というものになり、以後の性格が安全策に走る、消極的なものになる。また母親の応答を引き出せなかったということで、自分の能力に不信感を抱き、自分に対して肯定的な感情を持ってない、自信のない性格になってしまう。かつてのホスピタリズムが典型的な例である。（ホスピタリズムのことは自分で見てね…(・・;)）
- 4、赤ん坊が大人の顔をじっと見つめる行為は、人間の乳児が進化の過程で身に付けた、生存可能性を高めるためのコミュニケーション能力といえる。人間は生理的早産であるため、生存可能性が低い。その為、生まれて比較的すぐの赤ん坊はだれかれ構わず見つめるなどして、自分をかわいらしいと思わせることにより、大人の養育行動を引き出そうと本能的にするのである。
- 5、青年期の前期である思春期には第二次性徴による急激な身体の変化が起こり、それを契機として、自分に対して注意、関心が向くようになる。その結果、自分が他者からどのように思われているかという自意識が過剰になり、他者と接する対人場面において、過剰に強い不安や緊張にとらわれてしまい、対人恐怖を引き起こしやすくなる。
- 7、アダルトチルドレンとは虐待を受けていた子供が、親の望むいい子になろうとして、要求を常に敏感にとらえて行動する結果、子供に対する大人の思いや要求を常に先取りして行動したり、顔色をうかがいながら行動したりするようになることである。アダルトチルドレンは親との関係において、役割逆転が起きており、子供が親の欲求を満たすよう行動する。その為、成長してからも、他人の欲求を満たすことにやっきになり、ひどく自尊心が低いなどの心理的な不適応をきたしがちである。
- 9、2007年の冬をみてね☆
- 10、11、自己愛傾向の強い人は自らを特別な存在であるとする強いイメージをもっていて、他者から与えられる情報や言動を歪めて知覚し、都合よく解釈して（自己誇大的バイアス）自尊心の高揚や維持をはかろうとする。（自尊心方略）しかし、そのイメージは現実的根拠が乏しいために他者の批判に対してひどく敏感になる。その結果、自尊心を傷つけるような相手に対しては、激しい攻撃行動にでるなどする。
- 12、①人間は行動をとって何らかの結果が得られた際に、その結果の原因を推測し、評価しようとする、それを原因帰属という。利己的な帰属のバイアスとは、自尊心が上がるような、自尊心を下

げないような原因帰属のしかたをいう。例えば、成功した際には自分の能力が高かったからだと考え、失敗した際には、運が悪かった、〇〇のせいだ、という風に考えることである。

- ②高い価値を持つ人と自分との間に何らかの結びつきがあることを他人に積極的に示すことで自尊心を高めようとする。例えば、藤原のりかの実家が家の近くにある、私が生まれた12月5日はベートーベンが死んだ日だ、などということである。
- ③自分が属する集団を高く評価し、価値を認めることで、自分がその集団の一員であるということに肯定的な意味を持たせ、自尊心を高揚しようとし、逆に自分が所属しない集団やライバル集団の価値を下げて相対的に自尊心を高めようとする。例えば、東大のいい評判をたくさん並べたてたり、京大は所詮地方の大学さ(´・`´)といたりすることである。
- ④自分が何らかの脅威にさらされた際に、自分を恵まれない他者と比較して、自尊心の低下を防ごうとすること。例えば、まるちゃんがテストで40点をとった際に、ぶーたろーに何点取った？と尋ねて、25点だぶーと聞かされ、自分よりも下がっていると安心すること。
- ⑤自分と心理的距離が近い他者との関係において自己評価を高めようとする。自己評価を高める方法としては反映と比較の2つがある。反映は、友人の優れた業績や行動の威光を反映させて自己評価を高めることで、比較は自らの自尊心の拠り所となっている点においては自分の方が友人より優れていると思うことで自己評価を上げることである。例えば、頭のいい、できすぎクンと運動神経のいい、もてすぎクンがいたとすると、できすぎクンは運動神経のいいもてすぎクンの友達であることを素直に認め評価することが反映であり、頭の良さにおいてはもてすぎクンには負けないと考えることが比較である。反映と比較をうまく使い分けて、自尊心を高めることが自己評価維持理論である。
- ⑥成功できるか分からない、自信がない事柄に関して、自分に不利な条件があることをあらかじめ主張しておくことで、失敗しても自己評価が下がらず、成功したら、不利な状況であるにもかかわらず、ということで自己評価がさらに上がるように仕向けること。例えば、試験前に「最近隣の部屋の人に彼女が出来てベランダでいちゃいちゃする声が聞こえて集中できない」とか「テニスの試合が近くて勉強する時間がない」と言うことで、自己評価が下がらないようにしておくことである。

13、①自分に対して、誇大な自己イメージを抱き、高い自尊心を抱くこと。人からの称賛を望み、批判に対しては異常に過敏である。

- ②自分で考える問題です…私なりには、一人っ子が増えて親が過保護な家庭が増えたこととかが挙げられるんじゃないかと思います。

14、3と似ているので省略させていただきます(・・;))

15、2007年の夏をみてね☆

16、ある人にとっての強い心的外傷体験(トラウマ)の記憶を、現在の記憶を持つ意識と切り離し、それを思い出したり、苦しんだりしなくて済むようにするための心理的なはたらきを解離といい、多重人格とは、解離によって起こった疾患の一つである解離性同一性障害のことである。過去の耐えがたい記憶がよみがえりそうになった際に、心から全く別の人格になることによって、苦しむこともなく、心理的な安定を得ることができる。

17、人はときおり、自分に対して注意が向くことがあり、他人からの視点で自己を意識している状態を公的自己意識という。公的自己意識の強い人は、他者が存在する状況では自分が人の注目や批判の対象になりやすいと思う認知のゆがみである自己評的バイアスが起りやすい。その為、居心地が悪く感じたり、不快な感情を抱くなど、対人不安を感じやすい。

18、神経性食欲不振症も神経性過食症も、摂食障害患者の背景にある心理にはやせ願望と肥満恐怖がある。また、ボディイメージに歪みがあり、自分を太っていると思い込んでいる。さらに嘔吐や下剤乱用等を繰り返す傾向がある。また、太ることの恐怖から活発に動き回るなどし、女性らしい体型を拒否する傾向がある。しかしながら、過食症の患者は、拒食症患者に比べて、過食嘔吐の回数が高頻度で、持続的である。また、摂食制限の意志や肥満恐怖、ボディイメージの歪みは強くない。拒食症の人は自らが病気であることを認めないのに対し、過食症患者は自らの症状に悩み、病気であることを認識している。過食症患者は自己コントロールができず、衝動性を止められない。…他色々書けます。汚い文でごめんなさい。

19、12をみてね☆

20、人間の乳児は生理的早産であるがゆえに、感覚器官等は母胎内で発達しているにもかかわらず、自力では行動できないので、親の養育が無ければ生きていくことはできないという、離巢性と就巢性の両方を兼ね備えるという特徴をもっている。

その為、自らの生存可能性を高めるように、表情や動作を用いて大人とコミュニケーションをする能力を身に付けた。それによって、親の注意を自分にひきつけ、かわいいと思わせ、養育行動を引き出そうとするのである。

十さいごに十

個人的には 大学で教授が教え子に殺害された事件で、犯人が先生に話しかけられず、寂しかった。疎外されていると感じた。って言うてるらへんとかを絡ませてきそうな気がしてます。クサナギも怪しいけど(^)/あとはジャニーズのストーカー事件かな！まあそこはテストをみてのお楽しみ、ということ！わからなくてもとりあえず書いたらいいと思います！質より量です！見た目大事です！頑張っって勉強しました！書きました！っていうアピールしてください！試験用紙は1枚ですが、正直かなりスペースあります…持ってる知識は出し惜しみせずにどんどん書いて乗り切ろう！